

車掌さんがくれる幸せ

朝日新聞「生活」6/10「ひととき」より無断転載

特に車掌のみなさん！

朝日新聞、生活面に「ひととき」という欄があります。この投稿欄は読者が日常を感じたままに表現して投稿していると思います。毎回、心が温まり優しさと微笑ましさを感じるお話が紹介されています。

10日の投稿で「車掌さんがくれる幸せ」という八王子市に住む女性からの投稿がありました。少し私たちの仕事に関係していましたが「転載禁止」となっていない事を良いことにして全文を紹介します。

2才の息子は、電車が大好き。ある絵本に、踏切を待つ動物に向かって車掌さんが手を振るシーンがあり、そのページを開くと、息子は絵本に手を振るようになった。

そんなある日。電車を降りて改札へ行こうとすると、息子が「バイバイする」と頑として動かない。困っているうちに電車が動き出し、車掌さんが目の前に迫ってきた。息子が手をひらひら振ると、「バイバーイ」と言いながら、笑顔で手を振り返してくれた。

そのときの息子の喜びようといったら。目をキラキラさせて、満面の笑み。「車掌さんがバイバイしてくれたね。うれしかった」と帰り道は大興奮だった。

それからは電車を降りるたび、車掌さんを見送っている。うれしいのは、ほとんどの車掌さんが笑顔で手を振って下さることだ。いつもお礼が言えないので、この場を借りて「ありがとうございます」と伝えたい。

出産するまで、電車は自分を運んでくれる便利な箱でしかなかった。駅にこんな幸せがあったなんて。ささやかだけど、心があつたかくなる。今まで、急いでいていろんなものを見落としていたかもしれない。

子育ては大変だけれど、今はゆったりペースで日々を過ごそうと心がけている。小さな幸せに、いっぱい出会えるように。

お母さんのうれしさと感謝の気持ちがとても伝わってきます。しかし「列車監視」優先の新幹線で、笑顔で手を振るなどとても考えられません。ただ、随分前ですが、お客様から「車掌さんが子供に手を振ってくれて、とてもうれしかった」というリサーチ結果を営業訓練で紹介された事がありました。しかし残念なことに「子供にだけは手を振っても良いですよ」等とは言ってませんでした。